

# 1 人口の推移

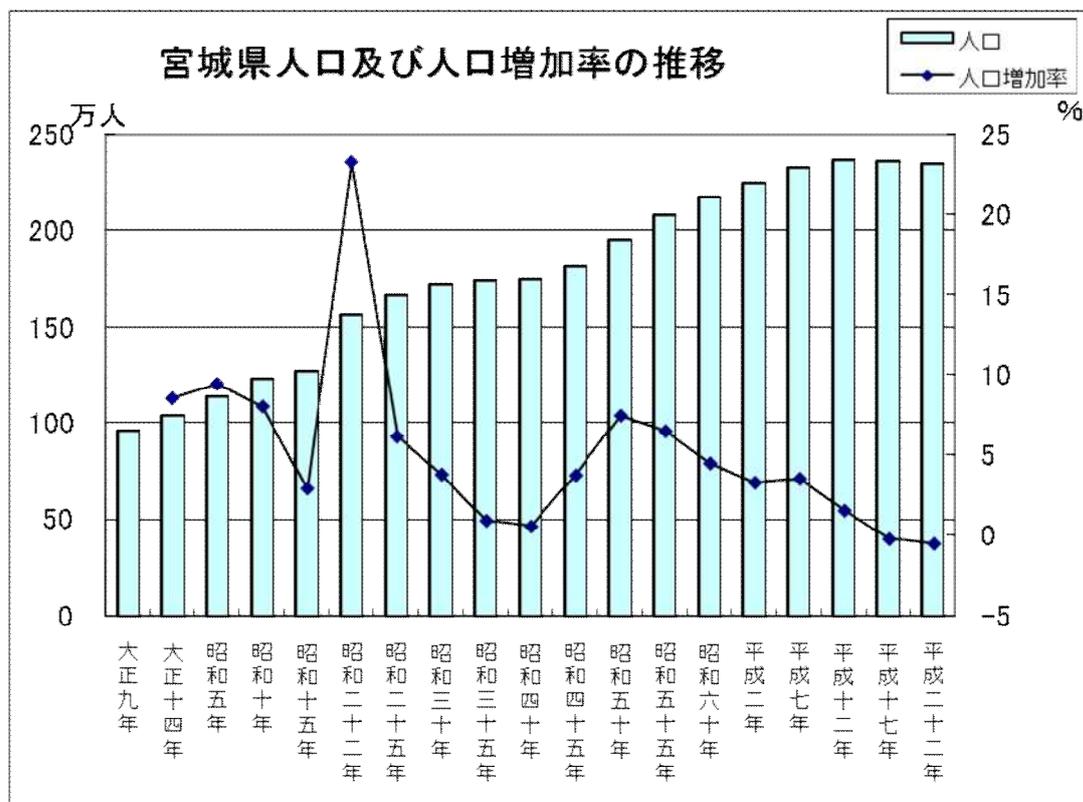
## (1) 総人口及び男女別人口【別表1参照】

平成22年10月1日現在の宮城県の人口は234万8,165人で、平成17年からの5年間で1万2,053人、0.5%減少した。宮城県の人口は、大正9年の国勢調査開始以来、一貫して増加を続けていたが、前回初めて減少し、今回も引き続き減少する結果となった。

人口を男女別にみると、男性が113万9,566人、女性が120万8,599人で、女性が男性を6万9,033人上回った。平成17年と比べると、男性は9,606人減少し、女性は2,447人減少した。

人口の推移をみると、大正9年から平成12年までは一貫して増加し続けてきた。その増加率をみると、大正9年から昭和10年までの各調査では、前回比8～9%増で推移していたが、昭和15年には3.0%増に低下した。昭和22年は戦後の復員により23.3%増と大幅に上昇し、昭和25年は第一次ベビーブームなどにより6.2%増となった。その後、昭和50年の7.5%増をピークに、出生率低下などの影響から増加率は低下傾向となり、平成2年は3.3%増、7年は3.6%増、12年は1.6%増、17年は0.2%減、そして今回0.5%減となった。

図1



## (2) 市町村別人口【別表2参照】

宮城県の人口を市町村別にみると、仙台市が104万5,986人で最も多く、次いで石巻市が16万826人、大崎市が13万5,147人となっており、最も少ないのは七ヶ宿町の1,694人となっている。

市町村別の人口増減をみると、35市町村のうち、8市町で人口が増加した。

このうち富谷町が13.1%（5,449人）で最も多く、次いで名取市が6.5%（4,472人）、利府町が5.4%（1,737人）と続き、仙台都市圏の人口増加率が高い。

一方、27市町村で人口が減少した。このうち七ヶ宿町が9.5%（177人）で減少率が最も高く、以下、丸森町が7.7%（1,291人）、松島町が6.8%（1,108人）と続いた。

## (3) 広域圏別人口【別表3参照】

広域圏別に人口をみると、仙台都市圏の149万98人が最も多く、県人口の63.5%を占め、以下、石巻圏21万3,780人（同9.1%）、大崎圏21万789人（同9.0%）の順となった。

平成17年と比べると、仙台都市圏で2万6,819人（1.8%）増加したが、栗原圏が5,316人（6.6%）、登米圏が5,347人（6.0%）、気仙沼・本吉圏が5,738人（5.9%）、仙南圏が7,460人（3.9%）、石巻圏が7,502人（3.4%）、大崎圏が7,509人（3.4%）減少した。

人口割合の推移をみると、大正9年の調査開始以来、仙台都市圏だけが一貫して上昇している。

表1 広域圏別人口の推移

(単位:人・%)

	平成2年		平成7年		平成12年		平成17年		平成22年	
	人口	増減率								
県計	2,248,558	3.3	2,328,739	3.6	2,365,320	1.6	2,360,218	0.2	2,348,165	0.5
仙南圏	196,143	0.5	197,310	0.6	194,884	1.2	191,139	1.9	183,679	3.9
仙台都市圏	1,292,282	6.9	1,381,877	6.9	1,437,181	4.0	1,463,279	1.8	1,490,098	1.8
大崎圏	223,144	0.1	224,147	0.4	222,513	0.7	218,298	1.9	210,789	3.4
栗原圏	91,852	3.4	88,552	3.6	84,947	4.1	80,248	5.5	74,932	6.6
登米圏	98,231	1.0	96,832	1.4	93,769	3.2	89,316	4.7	83,969	6.0
石巻圏	237,353	1.6	234,745	1.1	229,772	2.1	221,282	3.7	213,780	3.4
気仙沼・本吉圏	109,553	3.4	105,276	3.9	102,254	2.9	96,656	5.5	90,918	5.9

広域圏区分（平成 21 年 9 月 1 日現在の市町村による）

仙 南 圏：白石市，角田市，刈田郡，柴田郡，伊具郡（2 市 7 町）

仙台都市圏：仙台市，塩竈市，名取市，多賀城市，岩沼市，亶理郡，宮城郡，黒川郡（5 市 8 町 1 村）

大 崎 圏：大崎市・加美郡・遠田郡（1 市 4 町）

栗 原 圏：栗原市

登 米 圏：登米市

石 巻 圏：石巻市，東松島市，牡鹿郡（2 市 1 町）

気仙沼・本吉圏：気仙沼市・本吉郡（1 市 1 町）

#### （４）年齢（３区分）別人口

年齢（３区分）別人口をみると，15 歳未満の年少人口が 30 万 8,201 人，15～64 歳の生産年齢人口が 150 万 1,638 人，65 歳以上の老年人口が 52 万 794 人で，県人口に占める割合はそれぞれ 13.2%，64.4%，22.3%となった。

平成 17 年と比べると，年少人口が 13.8%から 0.6 ポイント低下，生産年齢人口が 66.0%から 1.6 ポイント低下した一方，老年人口は 19.9%から 2.4 ポイント上昇した。

表 2 年齢（３区分）別人口

（単位：人，%）

区 分	人口			構成比		
	平成 22 年	平成 17 年	増減数	平成 22 年	平成 17 年	増減率
総人口（ ）	2,348,165	2,360,218	12,053	100.0%	100.0%	-
15 歳未満人口	308,201	325,829	17,628	13.2%	13.8%	0.6%
15～64 歳人口	1,501,638	1,558,087	56,449	64.4%	66.0%	1.6%
65 歳以上人口	520,794	470,512	50,282	22.3%	19.9%	2.4%

（ ） 総人口には年齢「不詳」を含む。

#### （５）市町村別年齢（３区分）別人口【別表 4 参照】

年齢（３区分）別人口のうち，老年人口の割合を市町村別にみると，七ヶ宿町が 44.2%で最も高く，以下，丸森町が 33.6%，女川町が 33.5%の順となった。一方，富谷町が 13.7%で最も低く，以下，利府町が 16.3%，多賀城市が 18.4%，仙台市が 18.6%の順となった。

### (6) 外国人人口【別表5参照】

外国人人口は1万2,367人で、平成17年と比べ516人、4.4%増加した。

国籍別に外国人の割合をみると、中国が42.6%（5,263人）で最も多く、以下、韓国・朝鮮が29.0%（3,585人）、フィリピンが6.6%（813人）、アメリカが3.5%（428人）の順となった。

表3 外国人人口

(単位:人,%)

区 分	総数		前回比較		構成比	
	平成22年	平成17年	増減数	増減率	平成22年	平成17年
総数(国籍)	12,367	11,851	516	4.4%	100.0%	100.0%
韓国, 朝鮮	3,585	3,528	57	1.6%	29.0%	29.8%
中国	5,263	4,382	881	20.1%	42.6%	37.0%
フィリピン	813	793	20	2.5%	6.6%	6.7%
タイ	155	120	35	29.2%	1.3%	1.0%
インドネシア	246	210	36	17.1%	2.0%	1.8%
ベトナム	98	52	46	88.5%	0.8%	0.4%
イギリス	100	109	9	8.3%	0.8%	0.9%
アメリカ	428	388	40	10.3%	3.5%	3.3%
ブラジル	114	721	607	84.2%	0.9%	6.1%
ペルー	25	42	17	40.5%	0.2%	0.4%
その他( )	1,540	1,506	34	2.3%	12.5%	12.7%

( ) その他には無国籍及び国名「不詳」を含む。

### (7) 配偶関係【別表6参照】

平成22年10月1日現在の15歳以上人口を配偶関係別にみると、有配偶者は男性が58万5,980人、女性が59万88人で、有配偶率は男性が60.4%、女性が56.1%となった。

未婚者についてみると、男性が29万2,429人、女性が23万8,323人で、未婚率は男性が30.1%、女性が22.6%となった。

死別率についてみると、男性が3.0%（2万8,838人）、女性が13.8%（14万5,115人）と女性の割合が高い。

離別率についてみると、男性が3.5%（3万4,096人）、女性が5.5%（5万7,794人）となった。

表4 配偶関係(男女別15歳以上人口)

(単位:人,%)

区分	人口			構成比		
	総数	男	女	総数	男	女
宮城県	2,022,432	970,092	1,052,340	100.0%	100.0%	100.0%
未婚	530,752	292,429	238,323	26.2%	30.1%	22.6%
有配偶	1,176,068	585,980	590,088	58.2%	60.4%	56.1%
死別	173,953	28,838	145,115	8.6%	3.0%	13.8%
離別	91,890	34,096	57,794	4.5%	3.5%	5.5%
不詳( )	49,769	28,749	21,020	2.5%	3.0%	2.0%

( ) 不詳には日本人・外国人の別「不詳」を含む。